

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意
清熱剤 清虚熱剤 6		
おうれんあきょうとう 黄連阿膠湯	泄火育陰	黄連 12g・黄芩 3g・阿膠 9g・白芍 6g・鶏子黄 2枚 水煎し服用する。
傷寒論	<p>主治は、「少陰病、これを得て二三日以上、心中煩し、臥するを得ざるもの」である。</p> <p>寒邪の化熱入裏あるいは温熱の邪の侵襲により、腎陰が消耗すると共に心火が熾盛になり、心腎不交のために焦燥、不眠をきたしたもので、発熱、舌質が紅、舌苔が黄、脈が細数を呈する。</p> <p>心火を直清する黄連を黄芩で補佐し、阿膠・白芍で肝血腎精を補い、鶏子黄で心腎を滋補しかつ交通させ、泄火と滋陰を同時に行っている。</p>	